

県立小出特別支援学校 川西分校 H27年度 学校経営方針

【目指す教育】

教育目標

「夢をえがき、一步一步前進する子」

学部重点目標

- ・豊かな生活を送るため様々な学習や体験を通して、将来の夢や目標をもって取り組もうとする態度を身に付ける。
- ・将来の職業生活に必要な基本的な知識、技能、態度を身に付ける。

指導の重点 《インクルーシブ社会に対応する教育》

「**社会と関わりながら生きていく力の育成**」(2年次)

～ **できる力を育てる!** ～



教育を支える「3つの柱」

※アンダーラインは2年次変更点

<p>《安心・安全な学校》</p> <p>◎最悪を想定した備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理 ・災害対応 ・交通安全 ・安全な校外活動・修学旅行・現場実習の実施 <p>◎潤いのある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花や芸術作品に囲まれた学校環境づくり <p>◎生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の観察、相談の充実 	<p>《専門性の向上》</p> <p>◎新教育課程の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の<u>単元開発</u> ・校内検定の開発 ・学習の履歴の蓄積 <p>◎研究・研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の体系化 ・実践研究の発表 (<u>ポスター発表会の実施</u>) ・情報収集と活用 <p>◎最良のチームワークによる指導の充実</p>	<p>《関係機関との連携》</p> <p>◎保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の情報交換等の充実 <p>◎福祉・労働・医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働・福祉機関と連携強化した進路実現 ・事例に応じた関係機関と連携した支援 <p>◎地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業等と連携した学習機会の拡大 ・学校間連携の推進 <p>◎センター的機能の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域ニーズに対応した地域支援</u>
---	---	---



「なぜ人は、学校へ行かねばならないのか？」

自己を知り、人や社会とつながるために文化を学びに来る。

「学校は未来を作る工場である。」

子供たちが社会で活躍する 10～20 年後の社会を想像し、そこで生きていく力を育てる。

指導の重点

《インクルーシブ社会に対応する教育》

「社会と関わり合いながら生きていく力の育成」(2年次) ～ できる力を育てる!～

《1年次重点事項》

- 共通文化の獲得
 - ・共有できる文化の育成（生活年齢に応じた小中学校教材の活用、社会文化の活用）
 - ・文化の共有は、共感・共鳴する活動体験の推進
- 表現力の育成（感受性の育成含む）
 - ・音楽、芸術、スポーツ、自然など、様々な働き掛けを通して、感じる心を豊かに育てる。そして、言葉、芸術、身体、支援機器などを使って、自分の思いを表現する力を育てる。
- 社会体験の広がり
 - ・表現する力を基に生活や社会へ働き掛け、社会経験を広げて社会性を育てる。

《2年次重点事項》

新教育課程の導入

★「できる力」を育てる!

- ・体験だけで終わらず「できる力」を身に付けるために、課題分析と指導方法の工夫に努める。
- ・課題は、生活や職業などそれぞれの分野で優先順位の高いものから取り扱い、指導内容の精選を図り、十分な指導時間の確保を行う。
- ・生活や職業分野を中心に、様々な校内技能検定を設定し、何が（指導内容）、どこまでできているか（評価規準）を、明確に分かるようにする。
- ・つまづきが分かったときは、支援方法や代替案を用意し、目的行動を成立させる。



※「できる力」が増えれば、社会と関われる機会が多くなる。関わりを待つ身でなく、生活や社会に自ら関わっていく力となる。

《新教育課程の構造》(H27より)

感性・表現力、基礎教科力

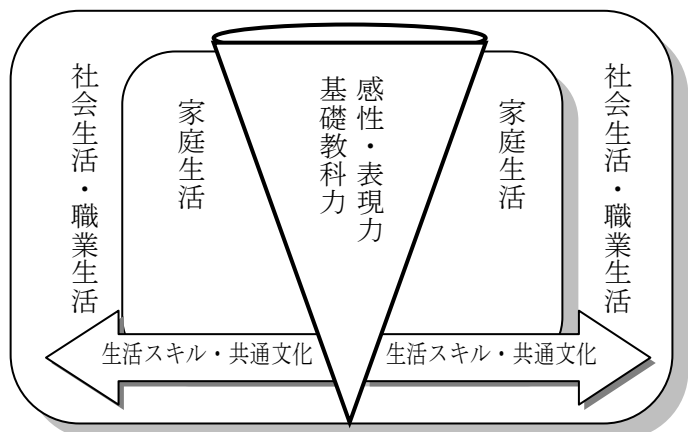
- 国語・算数数学、音楽、美術、体育

生活する力

- 家庭生活、社会生活

働く力

- 職業技能、職業生活



運営の重点

安心・安全な学校

- 最悪を想定した備え
 - ・健康管理の徹底、けがの防止（正常・異常の見極め、安全な指導・環境づくり等）
 - ・災害に備えた訓練と準備（リアルさのある計画と備え）
 - ・交通事故防止の徹底した指導（具体的指導の工夫）
 - ・安全な校外活動・修学旅行・現場実習の実施
- 潤いのある環境づくり（スクールガーデンや芸術作品に囲まれた学校づくり）
- 生徒指導の充実（子供の行動にはすべて意味がある。行動の意味を分析した指導）

専門性の向上

《重点：新教育課程の実施》

- 新教育課程の単元開発
 - ・家庭生活、社会生活、職業基礎、職業技能、職業生活の新しい指導枠では、指導分野を確認しながら、シラバスを基に指導内容を明らかにして単元開発に取り組む。
 - ・文化教養分野では、社会との共通文化や教科書教材の内容を積極的に取り扱う。
- 校内検定の開発
 - ・新しい指導枠を中心に「できる力」を目指し、指導内容や行程分析をして、評価規準を設定し、各種校内検定を設定して、児童生徒の意欲向上や達成度を明確にした指導に取り組む。
- 学習の履歴の蓄積
 - ・実施した指導の単元(題材)や指導内容を年度ごとに整理し、学んだ履歴を明確にして系統的指導の計画ができるようにする。

《研修・研究の充実》

- 研修の体系化
 - ・全体研修、キャリア別研修、希望研修などを体系的に整理し実施する。
- 実践研究
 - ・指導内容、評価規準を明確にした校内検定の開発
 - ・実践研究をポスター発表会等で広く公開する。
- 情報収集
 - ・他校視察（他校を見て自校を知る。）
 - ・資料収集（校内シンクタンクを作る。）

《最良のチームによる指導の充実》

- ・報告・相談し合う関係
- ・互いの良さを引き出す関係
- ・課題に対して部署を超え解決にあたるチームづくり

関係機関との連携

《保護者との連携》

- ・教育情報の発信、丁寧な日々の情報交換などを通して共通理解を図り取り組む連携

《福祉・労働・医療機関との連携》

- ・労働、福祉、医療機関などの関係機関と連携を図って進める進路実現
- ・事例に応じてキーパーソンとして連携作りに努めて課題解決を図る。

《地域との連携》

- ・ 川西高等学校との交流及び共同学習を積極的に進め、行事、ボランティア活動等共に取り組める活動の工夫
- ・ 地域住民、地域企業・事業所との交流を積極的に進め、地域で育てる教育の推進
- ・ 魚沼地区特別支援学校連絡協議会を通じた学校間連携の強化

《センター的機能の発揮》

- ・ 地域の相談ニーズに対応した地域支援

スピリッツ

・「特別支援学校の教師は・・・」

障害は理解しなければならないが目を奪われてはいけない。
教師は子供たちの可能性に目を向けなければならない。

・ **困難にぶつかったとき、「情熱」は足りているか！**